

「道徳科の指導と評価の一体化を目指して」

～一人一人の生き方を励まし、勇気づける授業づくり～ の設定趣旨

平成 29 年告示の小中学校学習指導要領解説総則編には「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。」と述べられており、予測困難な時代の到来が指摘されている。まさに、このことの象徴的な一つの出来事が昨年来世界中に蔓延している新型コロナウイルス感染症ではないだろうか。2年前には誰にも予測できなかったことであり、この新型コロナウイルス感染症の拡大により、教育界も大きな影響を受けた。また、人工知能（AI）、ビッグデータ、IoT（Internet of Things）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代の到来が迫ってきている。社会の在り方が劇的に変わる状況が生じつつある。

このように予測困難で大きく変化する時代の中にあって、これからの学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。社会の変化に対応し、未来を切り拓き生き抜いていくための必要な資質・能力を育てていくことがますます求められているわけである。この資質・能力については、学校教育全体を通じて培っていくことになるので道徳教育の要の時間としての道徳科においても育成されていかなければならない。そして、同時に、この資質・能力の育成に関わっての道徳科の果たす役割は大きく、道徳科の重要性が増していくと思われる。

本神奈川支部では、2019 年度に「道徳科の指導と評価の一体化を目指して」、2020 年度に「道徳科の指導と評価の一体化を目指して～生き方を励まし、勇気づける授業づくり～」をテーマに掲げ研究に取り組んできた。このように2年間同一のメインテーマを掲げた理由については、一つとして、道徳科の評価が必須事項となる中で道徳科評価研究を深めていくことを意図したからである。そして、もう一つ、指導と評価の一体化を図っていくことは、児童生徒にとっては自らが道徳性に係る成長を実感でき、教師にとっては質の高い授業実践につながると考えたからである。この指導と評価の一体化に関する研究は、今後も道徳科の充実を図っていく上での重要な研究課題の一つだと言えよう。道徳科は本来、児童生徒がよりよく生きていくための道徳性を育むことをねらいとしている。その道徳性を培う道徳科は、児童生徒が強制感を覚えたり、言われるがままに従ったりするようなものであってはならない。道徳科は、明るい未来に向かっての生き方が励まされ、勇気づけられ、これから歩いていく人生の背中を押してくれるものとなるような学習であることが期待される。このように明るく前向きに生きていく力を培ってほしいとの願いを込め、2020 年度にはサブテーマ「～生き方を励まし、勇気づける授業づくり～」を加えた。

令和 3 年 1 月に示された中教審答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～』でのキーワードに「個別最適な学び」がある。これは個に応じた指導の在り方が強く求められることを意味するものであり、一人一人を大切にしたい指導が望まれる。元来、学校における教育は集団の中で力動的に営まれるものであるが、その学びは個々に帰着されるべきものである。このことは生き方を学ぶ道徳科においても同様であり、今まで以上に一人一人に着目して、そのよさを認め励まし、勇気づけていくことが大切になってくる。

以上のことを踏まえ、今年度の神奈川支部の研究テーマは、指導と評価の一体化の研究をさらに深めていく中で、道徳科での個々の学びに着目し、「道徳科の指導と評価の一体化を目指して～一人一人の生き方を励まし、勇気づける授業づくり～」と設定した。